

小学校体育授業における思考・判断に対する教師の認識

－ 学習内容の捉え方（教えて考えさせる）－

三宅雪乃（静岡大学）

1. 目的

本研究では、小学校教師が思考・判断に対してどのように認識しているのかを調査することを通して、学習内容の捉え方について検討しようとした。

2. 方法

静岡県内の小学校教師を対象に体育授業における思考・判断に関する調査を行った。詳細は図1に示す通りである。

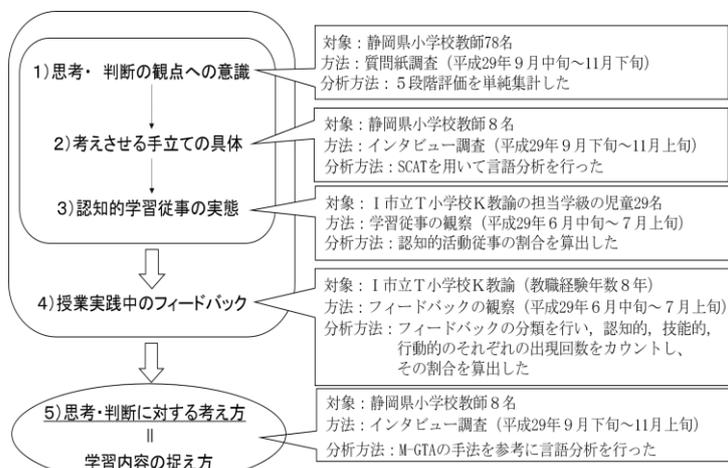


図1 研究方法のフローチャート

3. 結果及び考察

1) 思考・判断への意識

体育の授業づくりを行う際の、計画場面、実践場面、評価場面のどの場面に対しても、子どもに考えさせることへの意識が高い傾向が認められた。

2) 思考・判断の手立ての工夫

様々な観点から考えさせるための手立ての具体が考えられていることが捉えられた。回答内容を分類すると、考えさせるための手立ての工夫として、「視点を示す」「時間の設定」「活動の仕方」「道具」の4つのカテゴリーが抽出された。

3) 認知的活動従事の時間的割合

（K教諭の授業実践を事例として）

子どもに考えさせる活動の時間が位置づけられていることが捉えられた。

4) 認知的フィードバックの割合

（K教諭の授業実践を事例として）

認知的活動従事の時間が位置付けられているものの、認知的フィードバックがあまりされていないことが確かめられた。

5) 思考・判断に対する認識

8名の教師に対して、思考・判断させることについてインタビューを行い、その回答内容を分析した。各教師の意図や背景を推測し、データの解釈を行った。その結果、4つの概念（表1）が抽出された。

4. 結論

考える活動そのものに対する意識が強いことは捉えられたが、学習内容の理解に向かっての思考を展開させようとする事への意識を高めていくことの必要性も示唆された。

表1 思考・判断に対する認識

代表的なデータ	データの解釈	概念
ただボンって投げて、自分でマットの場作ってみろという感じで、開脚前転できないときはこういう場を作るんだよと言わずに工夫してみるというところがちらほら出てきて、だんだんと解決されるようになってきて	土台となる知識や方法を与えずに子どもの発想に任せている	【自由な考えの尊重】
みんなのチームで今どこがね、どの練習したいの？何で練習したいの？ってところで、考えて、やっていく	何を考えたらよいのかを促している	【考えの方向づけ】
アタック、トス、レシーブと順番にどうしたら上手いくのかとやっていくと作戦が決まってくる	考える手順を教えようとしている	【考え方の支援】
絶対出来てほしいなって思っていることが、今年私1年生担任なんですけど、できてほしいなって思っていることは、逆上がり、25m泳ぐ、まあ、その2つはできてほしい。考えるための知識を教えてくださいって使って考えなさいって	考えるための知識を教えてそれを活用して考えさせようとする思いがある	【知識の活用】